

GLO[∞]AL
CENTER

**ANNUAL
REPORT
2023**



♡ ご挨拶



2023年、米国の大手辞書出版であるメリアム・ウェブスター「今年の単語」に選ばれたのは「真の」「本物の」「正真正銘の」といった意味を持つ「authentic（オーセンティック）」。
AIが生成した偽コンテンツが溢れる2023年に、この言葉が浮かび上がってきたのはある意味大きな希望ではないでしょうか。

GLOCALは、authenticです。
ここには、リアリティしかありません。
オンラインでもいいのに、なぜわざわざ「場」が必要なのでしょう？
私達が人間だからです。

ダイバーシティ、グローバル、コミュニケーション。
これらの言葉をこの10年ずっと耳にしながら、フェイクでも見せかけてもなく
“真の”ダイバーシティ、グローバル、コミュニケーションの実装を、見つめてきました。
そのプロセスには、痛みも伴い、葛藤もあり、沢山の失敗もありました。
それがリアリティ。だからこそ楽しさがあり、悔しさがあり、嬉しさもあります。
Authenticな活動、社会の実現は、いつもたった一人の個人からはじまります。
既存の枠組みを外すには、新たな眼差しでまっすぐに物事をとらえる若者の力を借りるほか
ありません。
私たちは、常に新しい眼で社会を見つめられているのでしょうか？



伏すこと久しきは、飛ぶこと必ず高し 『菜根譚』

(長い間、うずくまって力を蓄えていた鳥は、
いったん飛び立てば必ず高く舞い上がる)



2023年、この言葉を胸に自分たちが信じる「意味」を愚直に追いかけてきました。
みなさんとのアクションによって高く飛び、もっと枠組みや境目を越えて行けると
信じています。同時に、『ハードルは、高いほどぐりやすい』という見方もできることを、
いつも心にとめて♡
力を蓄えるもよし、高く舞い上がるもよし。さあ、動き出そう。

それでは、2023年度、設立11年目の活動の記録をご覧ください。いつもありがとうございます。

認定NPO法人グローバル人材開発センター代表理事 行元 沙弥

INDEX

P01-02	ご挨拶と目次
P03-04	2023年度のハイライト
P05-08	事業紹介
P09	寄附・賛助会費の ご報告と御礼
P10	愛のメッセージ集 (学生・社会人の声)

“STRIVE”

グローバルセンターの知名度が上がってきたことを実感できるようなお声がけや、
受賞という形で評価を戴く機会に恵まれた1年。

その分忙しさは増し、限られた人的リソースと予算、そしてスケジュールにおいて事業を進めていく中で
苦しさに喘ぐ瞬間がそれぞれのスタッフに幾度かありました。

それでも、真摯に葛藤し成長する学生の姿や、妥協無く私達と新たな学びの場を創出してくださった
各連携先の皆さまに背中を押され、走り抜くことができました。

AWARD

関西財界セミナー2024「特別賞」受賞

一般社団法人関西経済同友会、公益社団法人関西経済連合会が主催する
「関西財界セミナー賞2024」において「特別賞」を受賞しました。
国内外の学生と企業人が学び合う場を提供する点や、産官学民の連携プ
ラットフォームとして、今後も地元企業と若者の協働・価値創造の好循
環が続くことが見込まれている点等が評価されました。
サポーター、役員、活動に参加している皆さまとともに積み重ねてきた
11年間が栄えある賞に結びつき、大変喜ばしいニュースとなりました。



TEAM

進化する仲間たちと



今年度スタッフに加わった三谷(左)、大原(右)

2022年度までに高校生プログラムを卒業した学生を中心とするインターン生のこの数年での活躍は目覚ましく、今やその存在無くしてグローバルセンターの活動は成り立ちません。日々の広報活動やSNSの活用、Students Labの運営に始まり、学生と社会人の交流会イベントの企画と実施、プログラムの設計、そして助成金の申請サポートまで、様々な形で当センターを支えてくれています。また、大学1年生からインターン生として関わっていた三谷が新卒で就職し、10年以上続く京都市受託事業（P05参照）の担当として活躍しています。加えて、異業種研修事業グローバルシフトキャンプの1期生であった大原がオールラウンダーの強力な助っ人として加わり、新生グローバルセンターが始動しました。

BASE

マジョリティーのサードプレイスへ

コアパートナーの一員として運営するQUESTION Students Labでは、前年度と比べて学生会員のうち高校生の占める割合が倍増。これまでその多くは当センターが実施していたプロジェクト参加者でしたが、今年度は施設付近に住む高校生の利用が大幅に増えました。こうした会員層の拡大は、Students Labの役割が、コロナ禍では学校の代役として限定的に利用されてきたサードプレイスから、学生全体・学生生活全体に欠かせないサードプレイスに移り変わってきたという質的な変化だと捉えています。

また、QUESTIONオープンから3年半を経た今、複数の組織による協働の意義が形になってきたことを感じています。立ち上げの第一章から、成果を生み出す第二章へ。ここからが本領発揮です。



のハイライト

2023年度に始まった新規事業例 抜粋（順不同）

\\PBL、学生プロジェクト//

- (一社)Chefs for the Blue
「The Blue Camp」プログラム運営

\\場づくり各種//

- QUESTION & Students Lab共同開催
交流会「ジェネコネ」の定例開催
- 全国他府県や大手企業からの視察、
講師派遣やワークショップ依頼増加

学生によるまちづくり、

\\地域や企業の魅力発信//

- 京丹後市 「京丹後市地域おこし
協力隊 高校生と地域の架け橋と
なるコーディネーター募集業務」
- (公財)京都産業21
「京都ビジネス交流フェア2024」
学生向け魅力発信ツアー

NEW

2023年度の新たな取り組み

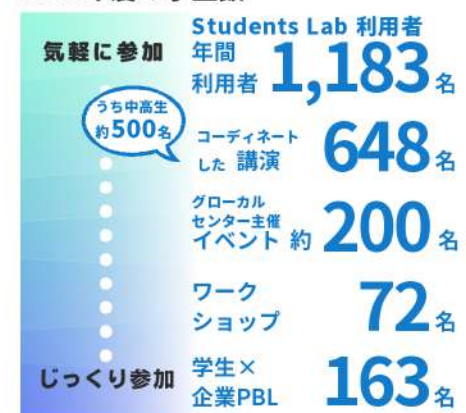
京都を中心に参加者や協働する仲間が増え、国内各地（山形、東京、鳥取、神奈川、埼玉、三重、熊本等）にも事業展開の場や参画者のコミュニティが育っています。様々な地域から近況報告が届くたび、一歩、また一歩と活動の輪が広がっているのを感じます。グローバルセンターが信じる、世代・国籍・文化・バックグラウンド、また、様々な興味・問い・ものごとの見方をもつ「多様な人」が集う場の普遍的な価値を、更に多くの人に届けて行くため、常に新たな可能性を模索し続けています。

NUMBER

数字から見る業績

「学生・社会人の両方が参加し学び合う」という、グローバルセンターが目指す場づくりを進めています。気軽に参加できるワークショップやイベント、講演など、単発で開かれる場への参加も含めて、当センターと関わった学生は年間1,000名以上、社会人は約600名。その中でも数日から数カ月をかけてじっくり行うPBL等の取り組みには150名以上の大学生と約30社の企業・団体が参画し、協働の中で理解を深め合う機会となりました。企業向け研修には5社から約250名が参加しました。また、学生活動拠点「Students Lab」を利用した学生は、年間でのべ1,183名となり、日常の居場所として利用する学生は大学生を中心に中高生も増え、関わり方の多様性も年々豊かさを増しています。

2023年度の学生数



TRY

NPO法人として持続的に活動していくために

私達には「NPO法人で働くこと」が若者にとって、企業への就職と並んでスタンダードな選択肢の1つとなっている日本社会の未来を創りたいという思いがあります。

そのためには、スタッフが短期的な収支を心配せず安心して活動に集中できる、持続的な事業と適切な予算が必要です。

人材育成は、製品の生産活動のようなアウトプット効果ではなく、一定の期間を経て現れるアウトカム効果である点に特徴があります。ゆえに、息長い取り組みとして持続していくことが必要ですが企業等から活動の意義への共感はいたいても予算化までは辿り着きにくい点が大きな課題です。

その課題解決の鍵を握っているのは、社会を変える力をもつ企業人のみなさんの共感と行動です。現状、若者のための無償の教育プログラムの提供や場づくりの財源は行政委託や助成金が多く割合を占めていますが、今後は、自主事業や寄附収入を強化した収益構造に変え、財政基盤の安定化をみなさんと共に実現していきたいと考えています。



Students Labでの日常の一コマ

探究型の学習で身につける 先の見えない時代を生き抜く力

地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業 (京都市受託事業)

本事業は京都市より受託しており、今年度で10年目となります。10年間の実績は、参加学生延べ600名、実施プロジェクトは100件以上となっています。今年度は大学生69名（留学生6名含む）と14社の地域企業との協力に基づく課題解決型プロジェクト（PBL）と企業訪問プログラムを企画・運営しました。PBLでは地域企業や地域が抱える課題をテーマに据え、留学生を含む大学生チームが協力し、実践的な能力を養いながら企業の実態や働き方について学びました。企業訪問プログラムでは現場見学やワークショップを通じて企業の裏側や地域企業の強みを体験し、参加者全員が対話を通じて学びを深めました。また、この事業は、大学や学年の異なるメンバーが集うことを特徴とし、大学内では深めきれない交流や同世代同士の新たな気づきが生まれています。プロジェクトを通して学生や担当者が得た学びは、単なる就職活動という「点」ではなく、人生やキャリアの「面」としての広がりや成長をもたらしていると感じています。



▼年次報告書▼



尾鷲×GCプロジェクト

尾鷲市地域経済活性化協議会と連携し、京都の高校生・大学生と尾鷲市の高校生が共に、尾鷲市の魅力と課題を発見し、解決策を考え提案を行うプログラムを実施しました。

学生からは、「水が合うまち尾鷲」というキャッチコピーの提案と、尾鷲の様々な“水”（人や歴史・文化、自然環境等を統合して“水”とする）を体験することができるイベントの提案を行いました。

グローバルセンターが京都で実施した事業を他地域に展開する可能性を大きく感じる事業となり、今後も尾鷲市以外の他地域をターゲットに、本プログラムのように若者の声をまちづくりに反映させるプログラムの展開を見据えています。



最終報告会
▼note記事▼



大人がワクワクしたら、若者もワクワクする！ 知らないことに出会い続ける学びの場

奈良信用金庫

過去3年間、ワークショップ等のご依頼をいただき双方の理解を深めた上で、奈良信用金庫の経営企画部と連携し、20～30代の職員を対象に3か月間の実践型研修を実施しました。

取引先の若手職員の方にも門戸を開き、個人の問題意識を基に「観光資源の再発見」「若者の視点を鍵にしたまちづくり」「働き方」「職員のモチベーション」等のテーマについて取り組み、発表を行いました。

「若い職員が財産。これだけ自分の問題意識と重なり合い、目指しているものが共鳴するとは思ってもみなかった。」と理事長様より驚きの声をいただきました。

提案されたそれぞれのアイデアの実装が約束されたことに大きな意義があり、次年度も継続予定です。



豊田通商株式会社

「『京都のキャンパスライフに電動スクーターがあれば…』を語り合うセッション」を実施しました。

大学生／大学院生7名、社会人6名、計15名が参加し、プロダクトやサービスとしてEVモビリティがどのように活用できるのかなどについてアイデアを出し合いました。参加者からは「京都の外から京都の大学に来る人の移動手段などについてリアリティある現状に触れることができ、面白かった。」「バイクを提供する側と利用する側の両方の視点から意見が聞けたからこそ、相互作用的にどうしたらニーズに応えられるかについて考えることができ、有意義だった。」という声がありました。今後、EVモビリティは京都の街での生活にどのように溶け込んでゆくのでしょうか。乞うご期待です！



オープン
セッション
▼note記事▼



**グローバルセンターだからできるMIX！
世代、肩書、文化を越えて人としての繋がりが広がる**

PTC FORUM 2023（トヨタ財団国際助成事業）

トヨタ財団国際助成プログラム採択事業として2021年秋よりスタートした台湾、タイ、日本との3カ国共同で実施しているプロジェクト：「気候変動と貧困問題の同時解決システム構築のため、台湾の“一十モデル”をタイと日本でノウハウ移転を行い各国での展開を図る」の2年間の集大成とし、2023年10月12日にフォーラムを実施しました。50名を超える方々が集まり、前半には3カ国の代表が「3カ国での学びと企業へのアプローチ」をテーマにパネルディスカッションを行い、後半は日本の学生チームが考案した「『一十モデル』を体感するワークショップ」を実施しました。世界レベルのグローバルな問題を、ビジネスの領域から学生と一緒にシステムチックに解決することを目指し、実践していくための繋がりを構築できた2年間となりました。



PTC FORUM
▼note記事▼



第11回グローバル人材フォーラム

2024年2月26日に『第11回グローバル人材フォーラム～地域が秘める無限の可能性、私がつくる新たな未来』を開催しました。龍谷大学深草キャンパスの和顔館地下2階のフロアを貸し切って、コロナ禍におけるオンライン開催への変更から5年ぶりのリアル開催となりました。このフォーラムは、京都産業大学、京都橘大学、京都文教大学、佛教大学、龍谷大学、京都光華女子大学の6大学のゼミや授業に取り組む学生のためのPBLの成果報告会です。グローバルセンター所属のチーム出場も含め、今回は過去最多の14チームが参加し、計143名（内訳：学生92名、企業人51名）の参加を得て、初めて分科会形式で実施しました。この6大学では、GPM（グローバルプロジェクトマネジャー）という地域職能資格のプログラムをそれぞれ各大学の特色ある内容で提供しており、このフォーラムは、その資格取得を目指す学生同士の交流の場も兼ねています。2部制を取り、第1部は成果報告会を、第2部は参加者全員で「グローバル人材とは？」をテーマにしたワークショップを開催し——グローバル人材がもつ要素とは？「偏見を持たない、否定しない、行動力のある人」「身近な問題に対して自分ごととして動き、周りを巻き込める人」「地球規模の課題を自分ごとで考えられる人」——等、現役の学生と社会人が熱い議論を交わしながら交流を深めました。



グローバル人材
フォーラム
▼note記事▼



グローバルセンター設立10周年記念イベント

2023年2月15日に当センター設立10周年を迎え、交流会を開催しましたが、その日に参加できなかった多数の関係者を改めてお招きする場を2023年7月7日に開きました。所属・年齢・性別・国籍を超えた多様な参加者にお越しいただき、また、卒業生やこれまでにご一緒してきた多くの方々との再会も果たすことができました。参加した高校生2人が100円ずつの寄附をしてくれたことも深くスタッフの心に残り、皆さんのお力添えをいただきながら、当センターが10年に渡って紡いできた「ひと」の繋がりの実感を感じられた貴重な一日でした。

教育についてのパネルディスカッションでは、ゲストのウスビ・サコ先生の「教育は、均質なものを生み出す工場ではなく、本当は畑なんです。種をまいて、色々な苗が出てきて、みんな様々に育っていく。愛情を与えて、ただ育つのを楽しみにする。」という言葉や、中村多伽さんの「課題を探究することはもちろん、探究したことを表現・アピールする場がなければいつまでも社会の既存のルールは変わっていかない。」等の言葉から、参加者にグローバルセンターの教育に対する姿勢や今後の当センターの活動の軸となる要素を存分に感じていただきました。そしてその後の参加者全員の参加型トークセッションでは、パネルディスカッションを通じてダイナミックに描かれた理想の未来を、現実にするアクションについて対話を深めました。



10thイベント
▼note記事▼



「長期滞在型外国人起業家等誘致プログラム事業」 (京都府受託事業)

2018年のスタートアップビザ新設以来、日本国内で外国人起業家誘致の動きが活発化しています。京都府内でも昨年からは本格的に京都府・JETRO京都を中心に様々な取り組みが進んでいます。その一環である本事業は、海外の起業家の府内定着を目指し、外国人起業家等のニーズにあわせて府内の各支援者と外国人起業家等の間を取り持つことを目的としています。

入国から移住・移転に向けた準備や、起業やビジネス展開等に向けた人脈の形成、地域におけるコミュニティづくりをサポートする約90日間の滞在型プログラムの運営業務を行いました。

外国人起業家コミュニティ(KIEC)により培った独自のネットワークと支援ノウハウを活かした支援の結果、プログラム参加者6名の内1人はスタートアップビザを取得し現在京都で起業の準備を進めており、またもう1名は京都の企業との共同商品開発が進んでいます。加えて、一連の外国人起業家支援の流れの中で生まれた Kyoto International Startuo Centerのアドバイザーとして本事業担当者の山田が就任し、京都府知事への表敬訪問を実施しました。



寄附・賛助会費のご報告と御礼

いつもグローバルセンターの活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

この場を借りて心より御礼を申し上げますとともに、
変わらぬご支援とお力添えのほど宜しくお願い申し上げます。

法人・個人共に賛助会員数が過去最高となりました！

2023年度は、以前から寄附者だった方が、定期的に応援し続けていきたいという想いで賛助会員として参画くださるなど、継続的な支援者が増えました。また、2023年7月7日に実施した10周年記念イベントでは、当日30件のご寄附をいただき、次の10年へ踏み出すための大きな励みとなりました。

こうして皆様からいただいた寄附・賛助会費は【157件／3,896,200円】となりました。多大なるご支援のおかげで、先のコロナ禍によって活動の自粛を余儀なくされていた学生をはじめとする若者に、日常生活では出会う機会の少ない企業や社会人、他校生・他大学生など多様な人との出会いや、共に学び活動できる場を提供することができました。

当センター設立以来の寄附総数と総額について

また、当センターが本格的に寄附・賛助会員を募りはじめた2016年7月から2023年度までの約8年間の総数／総額は【922件／29,114,138円】となりました。

この数字を改めて見てみると、認定NPOの要件でもある毎年100件以上の支援が積み上げられていることを感じます。また、1年平均では364万以上のご寄附をいただいております。1日に換算すると、1日1万円のご支援をいただいていることとなります。このご支援の重みを身にしてみても感じています。

2023年度 寄附・賛助会費内訳

157件／3,896,200円

● 賛助会費：3,522,000円
(法人 52件、個人 36件)

● 寄附金：374,200円
(法人 5件、個人 64件)

2016～2023年度の寄附・賛助会費総額

922件／29,114,138円



寄附金はどのように活用させて頂いております



- 学生と社会人が学ぶイベントやセミナーの会場代や参加費の補助として
社会に開かれた学び合いの場の提供
- 学びの平等性を確保するため、活動費補助や機会づくりの補助として
アクティブラーニング教育・支援への予算調整が難しい公立の学校への補助
- 遠方からプロジェクトに参加する学生の交通費補助として
過去事例：高校生が和歌山から京都開催のプログラムへ参加
- グローバルセンターの運営・発展のための活動費用として
スタッフ・インターンに必要な専門性やスキル向上の研修費、活動維持のための人件費等
- 助成期間を終えて続けたい事業継続の資金として
高校生・大学生のための三菱みらい育成財団、トヨタ国際助成プログラムの後継事業

「認定NPO法人[※]」継続のご報告

当センターは京都市より2024年4月1日に「認定NPO法人」の継続更新が認められました。
(2019年4月1日、京都市より「認定NPO法人」として認定されたものに対し、今回有効期間の継続審査を受けました。)

- 認定番号：京都市指令文 地第1号
- 認定有効期間：2024年4月1日～2029年3月31日

“認定NPOへの寄附”は社会を動かす原動力になります！

認定NPO法人であるグローバルセンターへのご寄附・賛助会費は、
個人・法人問わず税制優遇の対象になり、寄附金控除を受けることができます。
社会のためにお金を生かしたいという方には、ふるさと納税（税額控除の対象）
以外の方法として、この選択肢もあるということを知っていただけますと幸いです。



当センター沿革の前で探究成果を話す
高校生（2023年12月ファンの集い）

※「認定NPO法人」とは

NPO法人のうち、その運営組織及び事業活動が適正であり、公益の増進に資するものとして、一定の要件を満たし、所轄庁の認定を受けた団体の事を指します。
現在、「認定NPO法人」は、全国NPO総数のわずか2%です。その要件の一つの中に「広く市民からの支援を受けているかどうかを判断するための基準」があり、当センターはこの基準について“5年間で500件以上のご寄附（賛助会費含む）”という要件を達成し、継続更新することができました。

GCの最大の魅力「本気で」楽しみながら成長できること。ワクワクした大人と好奇心旺盛な学生と共にプロジェクトや活動に取り組むことで、毎回自分の想像以上の成長を感じています。「本気」だからこそ、生まれるパワーやGCにしかない刺激や楽しさがあると思います。ここで経験したこと、味わってきた感情全てがこれからの人生で大きな糧になると信じています^^

京都女子大学3年生 西村 妃委那

いつもGLOCALのイベントや企画に巻き込んでもらい感謝しています。私の視野や視点では決して発見できない未来への可能性を見せてもらい、ワクワクと新たな学びをもらっています。今後も未来を創る若い人たちのために私のできることは何でもやりますので、おっさんを使い倒してください(笑) 今後もGLOCALの更なる飛躍を祈っています。

佐々木化学薬品株式会社 代表取締役
佐々木 智一

高校生だった私の成長をこれでもかと喜んで応援してくれるグローバル。高校生の時から、今でも変わらずのびのびと思ったことや考えたことを言語化できるsafe placeです。BISOUS!!
いつもありがとうございます♡

立命館大学4年生 畠 麻理奈

私にとって、GLOCALは「十人十色」を追求できる場所です。自分の色を含めたいんな色を輝かせてくれるので、それぞれの色をとことん知ることができ、また自分自身の色もとことん理解できる場です。多様な色が輝いていて、多様な色が調和するこの場所での経験が私の人生に彩りを与えてくれます。ありがとうございます。

社会人1年生 高山 楓太

グローバルセンターの皆さん、また、そこに集ってくださった方々と初めてお話しさせていただいてから、あっという間に1年余りが過ぎてしまいましたが、いつの間にか私達にも京都印の引き出しが沢山でき、今では色々な可能性を肌で感じられるようになってまいりました。これからも皆さんとは旬な会話を愉快地に楽しくさせていただければと思っています。

豊田通商株式会社KD事業部
プロフェッショナルパートナー
田中 一臣

こんな大人になりたい!

GLOCALに出会って自分のサークルがグッと広がりました。ただ学ぶだけではなくその先の自分で行動する原動力を与えてくれる場をいつも提供してくださっています。

そして何よりGLOCALの皆さんが明るく楽しく活動されているのが自分にとって将来の指針になっています。これからもGLOCALと共に楽しく明るく豊かに学び、アクションしていきます!

大阪府立大学4年生 吉野 純也

真の地域金融機関、真のバンカーになるためにはどうすれば良いか、若い職員とともにグローバルさんのプログラムを受講し、全員で一歩を踏み出すことができました。

グローバルさんは若い方の味方です! どんどん仲間を増やし、突き進んでいってください! 応援しております!

奈良信用金庫 経営企画本部部長代理
堀田 裕一郎

イベントへの参加や活動の中で、グローバルは、多くの人と交流することで「答えのない問い」に触れ、自分ごとにしてできる場所だなと感じました。その中で、年代も価値観も異なる人と出会い繋がる場を設けていただけるだけでなく、その輪を学生が主体となって外部に広げて繋げていくサポートもいただけるので、やりがいを感じていました。あなたもこの輪の中心に入ってみませんか? きっと面白い繋がりが待っています!

京都大学4年生 矢野 太陽

とにかくバイタリティに溢れる皆さんにいつも圧倒されています! 笑

真剣かつ前向きな皆さんと話すことで、自分は何をしたかと思って社会に出たのか、原点に立ち返る大切な時間を頂いています。社会課題は決して単純ではなく複合的な課題に直面しなければいけません、そこに誠実に向きあうのがグローバルさんの凄さだと思います。希望の持てる社会をユース世代と形にしていけたら嬉しいです!

パナソニック株式会社 デザイン本部
島村 祐輔

気づけばもう5年ほどの間、長らくお世話になっていきます。愛のメッセージとは大仰で気恥ずかしくなりますが、何だかんだで私の大学生活のほとんどを一緒に伴奏してくれた身近な存在です。

時に辛口で時にシビれる面々は、あたかもスパイスの様に刺激的です。独特なグローバル風味はきっと今後も私の味わいを深くしてくれることでしょう。

龍谷大学大学院 修士2年 吉田 瑞希

私は日々、まだ見ぬ未来の価値をつくろうと奮闘する企業の支援をしています。社会はどう変化して人々の価値観はどうなっていくのだろうか。正解のなさゆえの難しさがあります。合意形成を工夫する中で、未来の当事者、ユースとの協働に強い意義を感じています。真剣さや切実さと、明るさや希望。

矛盾も孕んだ対話が大人たちに長期的な視点を与えてくれます。そうした機会をグローバルの友人たちと共につくれることを誇りに思います。

株式会社グッドパッチ 遠藤 英之

(2024年8月時点)

2023年度会員・寄附者（法人）一覧（敬称略）

正会員（法人）

- 京都商工会議所
- 一般社団法人京都経営者協会
- 一般社団法人京都経済同友会
- 公益社団法人京都工業会
- 一般社団法人京都中小企業家同友会
- 京都信用金庫

賛助会員（法人）

- 株式会社アグティ
- 綾羽株式会社
- 尾池工業株式会社
- 株式会社大垣書店
- 小川珈琲株式会社
- 株式会社片岡製作所
- 株式会社京写
- 京都エレベータ株式会社
- 株式会社ケーデバイス
- 佐々木化学薬品株式会社
- 株式会社サン食品
- 一般財団法人三洋化成社会貢献財団
- 株式会社ジーマックス
- 株式会社GSユアサ
- 株式会社JTB 京都支店
- 株式会社島津製作所

- 菅原精機株式会社
- 株式会社SCREENホールディングス
- 第一工業製菓株式会社
- 大和電設工業株式会社
- 株式会社松栄堂
- 株式会社塚腰運送
- 東邦電気産業株式会社
- 株式会社ドコモgacco
- 株式会社特殊高所技術
- 豊田通商株式会社
- 長津工業株式会社
- 株式会社長津製作所
- 株式会社名高精工所
- 株式会社ナベル
- 奈良信用金庫
- 株式会社西浅

賛助会員（連携大学）

- 京都光華女子大学
- 京都産業大学
- 学校法人京都橘学園京都橘大学
- 京都文教大学
- 学校法人佛教教育学園
- 学校法人龍谷大学

- 日新電機株式会社
- 日東薬品工業株式会社
- 日本新薬株式会社
- 株式会社パックス・サワダ
- 税理士法人be
- 株式会社藤井合金製作所
- 株式会社フラットエージェンシー
- ボストン・コンサルティング・グループ合同会社
- 株式会社堀場製作所
- 村田機械株式会社
- 株式会社村田製作所
- 株式会社メディケア・リード・ジャパン
- 株式会社ローバー都市建築事務所
- 株式会社ワクワクプランニング

ご寄附頂いた法人

- 生田産機工業株式会社
- 京都信用金庫
- 有限会社くらむぼん出版
- 株式会社澤村
- 増田産業有限会社

（2024年3月末時点）

特定非営利活動法人 グローバル人材開発センター

■ 事務局

〒602-8061

京都市上京区甲斐守町97 西陣産業創造会館 2F

☎ 075-411-5010

■ Students Lab Office（※学生活動拠点）

〒604-8006

京都市中京区下丸屋町390-2 QUESTION 5F

☎ 070-5262-7066

✉ info@glocalcenter.jp

🌐 <https://glocalcenter.jp/>